

町内にはさまざまなコミュニティがあり、独自の活動をしています。そんな皆さんの活動やイベントをご紹介しますコーナーがステイ・スマイル(笑顔のままで)です。

Stay Smile いざその時 ～弾道ミサイル落下時の行動について～

総務課 防災危機管理係 ☎62-9326

弾道ミサイルが落下する可能性がある場合取るべき行動について町民の皆様にお知らせします。

【弾道ミサイル発射直後の情報伝達】

- 弾道ミサイルは、発射から極めて短時間で着弾します。
- ミサイルが日本に落下する可能性がある場合は、Jアラートを活用して、防災行政無線で特別なサイレン音とともにメッセージを流すほか、緊急速報メールにより緊急情報をお知らせします。
- ミサイルが日本の領土・領海に落下したと推定される場合は、落下場所等の情報を伝達します。続報を伝達しますので、引き続き屋内に避難してください。

【メッセージが流れた直後取るべき行動】

- 屋外にいる場合
近くのできるだけ頑丈な建物や地下(※)に避難してください。(※)地下街や地下駅舎などの地下施設
- 建物がない場合
物陰に身を隠すか地面に伏せて頭部を守ってください。
- 屋内にいる場合
できるだけ窓から離れ、できれば窓のない部屋へ移動してください。

【近くにミサイルが落下した場合取るべき行動】

- 屋外にいる場合
口と鼻をハンカチで覆い、現場から直ちに離れ、密閉性の高い屋内又は風上へ避難してください。
- 屋内にいる場合
換気扇を止め、窓を閉め、目張りをして室内を密閉してください。行政からの指示に従って、落ち着いて行動してください。

※詳しくは、内閣官房のホームページ「国民保護ポータルサイト」(<http://www.kokuminhogo.go.jp>)をご覧ください。



Stay Smile こんにちは。『地域おこし協力隊』です！

こんにちは！地域おこし協力隊の松井です。森のオフィスでは、スタッフや利用者が知恵や情報、人などを紹介し、シェアするイベント「森の知恵」という企画を開催しています。どなたでも参加可能なイベントで、富士見町内のみなさんに役立てて頂ける様に様々な角度から題材を選び、定期的に行っています。

第1回目は、無料のクラウド会計サービス「会計free」の井領さん夫妻を迎え、森の知恵Vol.1『ITを活用して、経営・経理を良くする!』を開催しました。商店街のお店や農家、製造業、建築関係の方など総勢28名ほどが参加。クラウド会計サービスによって、面倒な作業が減る様子を実演し、参加者からは「そんなこともできちゃうの?!」と驚きの声が聞こえてきました。

第2回目は農業についての会で、森のオフィスで初の映画上映会が行われました。農業をテーマとしたドキュメンタリー映画『UNBROKEN GROUND (未開の領域)』を上映。上映会終了後は、IT企業サイボウズの社員でありながら現役農家でもある中村龍太さんが、「サイボウズ式課題解決ワークショップ」を実施しました。

そして、第3回目は7月14日(金)18:00～(予定)。産業医 麻植ホルム正之氏をお迎えし、「働き方と一緒に考える健康」についての開催を予定しています。お仕事のパフォーマンスに120%影響する自分の健康・体のコンディションについて、頑張り屋の日本人はないがしろにしがちです。「働く体」をテーマにどのようなイベントにするかは、森のオフィスのHP (<http://www.morino-office.com/>) や Face Book (<https://www.facebook.com/morinooffice/>) で告知するので、ぜひ参加してください。



☎78-8009 / 富士見町富士見3785-3 楽山荘

◆株式会社 八ヶ岳みらい菜園

弊社は地元企業経営者、カゴメ株式会社と新規就農者が平成27年に設立した農業法人です。

今から4年前に大平地区の水田地帯を隣地に工場をもつカゴメ株式会社が野菜農園として有効活用する計画が持ち上がりました。その後、富士見町産業課とともに地元や農地所有者との調整を重ねながら、ここで長野県営基盤整備事業を導入して田畑の大区画化と畑地化の工事を行った上で、平成30年秋に一部、平成31年春には全ての野菜農園をオープンさせる予定となっています。

私共の基本コンセプトは「人と自然の関わりを魅せる」として、人づくり、土づくり、本物づくり、地域づくり、未来づくりの5つのビジョンの実現を目指しています。

この野菜農園は、周年大型ハウス栽培、夏秋ハウス栽培、露地栽培、体験施設から構成されます。

事業の柱となるトマト周年大型ハウスは、最新の技術を用いた環境負荷低減に配慮した高生産性の約1.2haの施設規模です。他には、夏の冷涼な気候である富士見の地の利を生かした夏秋トマトの生産や、4.5haの八ヶ岳高原野菜の露地栽培も行っています。

弊社は本農園の運営を通じて、約30人の新規雇用と農業生産販売の経済効果を創出して富士見町に貢献したいと考えています。

また、カゴメ株式会社と共に、農業収穫体験、カゴメ富士見工場見学及び地域内外の交流の場を新たに設け、年間3万人以上の観光効果も創出し、農業と工業、観光が連動する地球環境にやさしい農園づくりにも取り組み、富士見町から新しい農業モデルを全国に発信していきたいと考えています。



※栽培イメージ

Stay Smile 子育てはたくさんの笑顔とたくさんの手で ~子どもの場所から~

NPO法人ふじみ子育てネットワーク ☎62-5505

新緑の季節、森からの贈り物

慣らし保育が終わり新入園児も園生活に少し慣れてきたゴールデンウィーク明け、新緑の季節に、野外保育森のいえ“ぼっち”ではヨモギ団子作りをします。子どもたちとぼっちのフィールドである町民キャンプ場を散策し、ヨモギ摘みをするところから始まりますが、この時子どもたちにヨモギがどんな草かを話します。ヨモギはおやつになるだけでなく、薬草としても人間の役に立ってくれるし、お茶にしても美味しいことなど。そして歩きながら実際にヨモギを手にして葉っぱの特徴、触れた感じ、匂いなど子どもたちに五感で感じてもらいます。子どもたちは、摘みでは「これヨモギ？」と保育士に確かめることを繰り返し、あっという間にヨモギを見分けられるようになります。そして同時にいろんな草や木の葉っぱに興味広がります。シダ類のクルンと巻いた新芽、みかんの匂いがする葉っぱ、触るとチクチクする葉っぱ、森にはいろんな草や木が表情豊かに葉っぱをたくわえています。さらにウルシなどの危険な葉っぱとも当然出会います。自然の中には人間の役に立つもの、好むものだけでなく、人間にとって危険なものもあることを知ります。この体験から子どもたちは、「自分たちが生きている世界には自分にとっていいものだけでなく、自分にとってはない方がいいものでも、存在する必要があるって存在しているものがあり、それらは排除するのではなく共存していくものなのだ。」ということを実感的に理解していきます。

子どもたちと森を歩くと、育ちの栄養になるたくさんの体験を自然がプレゼントしてくれます。



「これヨモギ？」子どもたちが次々に保育士に見せに来ます。



森の中でツタウルシを実際に子どもたちに見せながら毒草であることを伝えます。